

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

令和4年9月30日

「えづらファーム」が大賞審査委員特別賞を受賞！

～「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール大賞審査～

北海道開発局は、「わが村は美しくー北海道」運動 第10回コンクール大賞審査委員会を令和4年6月17日及び7月22日に開催し、優秀賞を受賞した13団体の中から大賞を2団体、大賞審査委員特別賞を3団体選出しました。管内からは「えづらファーム」が大賞審査委員特別賞に選出されました。

第10回コンクールでは全道60市町村から75団体の応募があり、昨年度、優秀賞13団体、奨励賞20団体を決定し表彰しました（開発局ホームページで公表済み）。

このたび、優秀賞13団体の中から、先導性、モデル性の高い活動を行う2団体に大賞（北海道開発局長表彰）、また、今後とも継続した活動が期待される3団体に大賞審査委員特別賞が贈られます。

○大 賞 北のなのはな会（安平町）
 ほんべつ豆まかナイト実行委員会（本別町）

○大賞審査委員特別賞 えづらファーム（遠軽町）
 農猿（南幌町）
 ベジタブルワークス株式会社（真狩村）

※ コンクールの経緯と受賞団体の詳細は別紙のとおりです。

※ 表彰式は令和4年11月10日（木）に行う予定です。

なお、表彰式に先立つプレイベントとして、受賞団体を紹介するパネル展を開催いたします。

【展示期間】令和4年10月3日（月）～10月7日（金）まで

【展示場所】大通ビッセ 1階ロビー＜札幌市中央区大通西3丁目7番地 北洋大通センター＞

「わが村は美しくー北海道」運動の情報は、以下のホームページに掲載しています。

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html

【問合せ先】北海道開発局 網走開発建設部

土地改良情報対策官

鈴木 俊弘 電話 0152-44-6870（直通）

土地改良情報対策官付 土地改良情報係長 安達 清二 電話 0152-44-6917（直通）

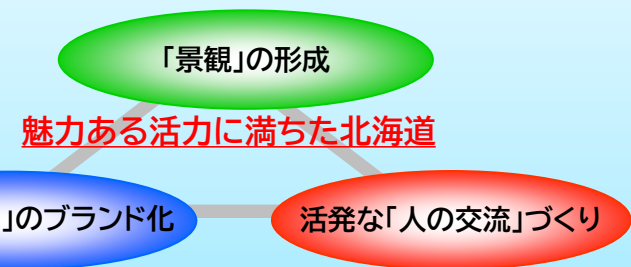
網走開発建設部HP <https://www.hkd.mlit.go.jp/ab/>



「わが村は美しくー北海道」運動 第10回コンクールの経緯と受賞団体について

北海道開発局
農業水産部 農業振興課

- 「わが村は美しくー北海道」運動（以下「わが村運動」）は、北海道の農山漁村が持つ、かけがえのない地域の資源（景観・地域特産物・人の交流）を守り、次の世代に引き継ぎ、そこに住む人々が誇りを持てる北海道の「わが村」の未来を創っていき、との思いから生まれました。
- 平成13年度から今日まで、コンクールの開催を中心に、道内各地における地域資源を活用した住民活動に光を当て全国に発信するなど、様々な方法により支援を続けています。



「わが村」運動としてのこれまでの取組と成果

- 北海道開発局HP、メールマガジン、Facebookから情報発信、JR車内誌への掲載
- 北洋銀行と連携したビジネスマッチング参加、パネル展（地域活性化に資する連携協定を活用）
- 首都圏におけるPR活動
- 高校における景観ワークショップ



地域活性化に向けた取組事例

- 根室市でフットパス等を展開する酪農家集団「AB-MOBIT」は、第2回コンクール「人の交流部門」（当時）で受賞。
- この受賞をきっかけとして、活動の地域への認識が広がり、団体としても更なる活動の広がりへ！「AB-MOBIT」は第4回コンクール「景観部門」（当時）でも受賞！
- 市内からはほかに歯舞地区マリンビジョン協議会が「地域特産部門」（当時）で受賞するなど、地域を代表する産業“農・水”の活力の更なる向上へとつながっています。



20年の歩みを踏まえ 運動の「新たな展開」へ！

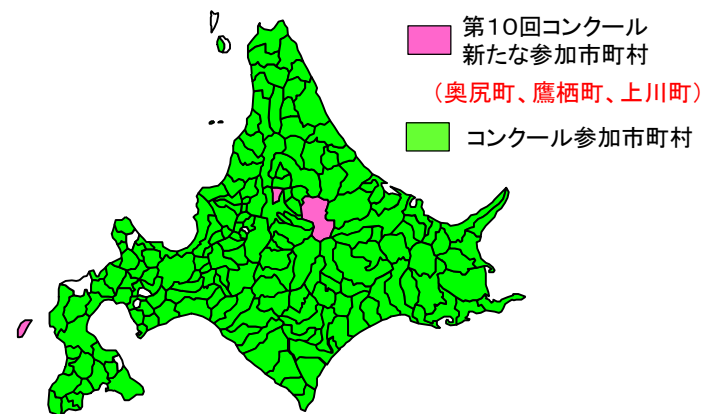
- 20年間の運動を振り返り、地域の活動の更なる発展を目指し、令和3年度から「わが村は美しくー北海道」運動の「新たな展開」に移行しました。
- 地域活動の担い手確保やコロナ禍等の中における活動の活力向上のため、これまでの取組に加え、他団体や関係機関との連携や情報発信などの更なる充実、全道各地の団体同士が意見交換・情報共有するためのネットワークづくり等を進めていきます。

「わが村は美しくー北海道」運動 第10回コンクールの経緯

- 第10回コンクールでは75団体が応募。新たに3町からの応募が加わり、全道179のうち172市町村が参加（96％）。
- これまでのコンクール参加団体数は、複数回応募を除き871団体、延べ応募数では1,247団体。
- 受賞団体数は、複数回受賞を除き延べ299団体。

これまでのコンクール参加団体数及び受賞団体数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	計
	H13-14	H15-16	H17-18	H19-20	H21-22	H24-25	H26-27	H28-29	H30-R1	R3-4	
参加団体数 (重複分を除く)	114 (114)	160 (119)	170 (122)	169 (100)	200 (130)	113 (73)	99 (64)	86 (57)	61 (41)	75 (51)	1,247 (871)



これまでのコンクール参加市町村

【ブロック審査委員会の結果】

令和3年度には各ブロックの審査を経て、優秀賞13団体、奨励賞20団体、NPO特別賞6団体が決定。令和4年度は優秀賞13団体から大賞を決定する大賞審査委員会を実施し、大賞2団体、大賞審査委員特別賞3団体が決定。

令和3年度

公募（～ R3年6月30日）

ブロック審査委員会
(R3年7月～R3年12月)

優秀賞・奨励賞の決定
(R4年2月1日)

- ・各開発建設部ごとに設置
- ・応募団体の現地調査
- ・優秀賞・奨励賞の審査・選考

- ・受賞団体の決定
- ◎優秀賞表彰者～北海道開発局長
- ◎奨励賞表彰者～各開発建設部長

- ☆優秀賞～優秀な活動を選考
- ☆奨励賞～将来性や継続性から奨励する活動を選考

令和4年度

大賞審査委員会
(R4年6月～R4年9月)

大賞決定
(R4年9月)

- ・優秀賞受賞団体の中から大賞候補団体を審査、選考
- ・審査委員は、外部有識者で構成
- ・大賞審査委員会
第1回委員会 6月17日
第2回委員会 7月22日
- ・受賞団体の決定
(令和4年9月30日)
- ・大賞表彰式
(令和4年11月10日を予定)
- 表彰者～北海道開発局長

- ☆大賞～運動を引率する先導性、モデル性の高い団体を選考

「わが村は美しくー北海道」運動 第10回コンクール受賞団体

大賞 (北海道開発局長表彰)

北のなのはな会 【安平町】



安平町



「菜の花」の再生可能エネルギー資源、観光資源としての可能性を見出し、地域で初めて菜の花の栽培・研究を開始したほか、特産品の製造・販売にまで発展させました。

観光協会等との連携により、「菜の花さんぽ」や「菜の花フォトコンテスト」を開催、観光客向けに毎年の菜の花ほ場を示した菜の花マップもホームページにて公開しています。

ほんべつ豆まかナイト実行委員会 【本別町】



本別町



本別町の特産物である“豆”をテーマに豆の消費拡大や地域活性化を目的として「ほんべつ豆まかナイト」を開催しています。準備・運営段階から関係団体と連携し、町内のコミュニティづくりや人材育成なども目指した実行委員会として活動しています。

イベントで使用する豆の栽培をプロジェクトとし、食育・地域学習の要素も含めるなど、十勝農業継承にも貢献しています。

大賞審査委員特別賞 (大賞審査委員表彰)

えづらファーム 【遠軽町】



「農村や農業の魅力、素晴らしさ」を多くの人に感じてもらいたいとの思いから、畑作経営を中心に様々な地域活性化に繋がる取組を展開しています。

農家民宿の経営、住み込みボランティアの受け入れ、農場アクティビティの提供などを行い、交流人口が増加することにより、地域社会の維持や活性化に大きく貢献しています。

農猿 【南幌町】



地域おこしや地産地消を目的として、町内の若手農業者が集まり活動を開始しています。

現在では、職業の垣根を越えて地域活性化を目指す団体に発展しており、南幌町の魅力を次世代に伝え継承していくために、子ども達に農業のかっこよさを伝えています。

農業体験型イベント「野祭」では、野菜の販売やトラクター展示などを行っています。

ベジタブルワークス株式会社 【真狩村】



真狩村の風土を生かした特別栽培農産物を7種栽培しており、道内はもとより首都圏にも出荷し、農業を収益性のある魅力的な職業にすることを理念としています。

農作物の栽培から、農業機械の開発、自社トラックでの輸送、販売に至るまで、効率的に活動しており、持続可能な農業と働きやすい職場づくりを大切にしています。

帯広ブロック	
参 加 団 体 名	応募者所在地
北海道帯広農業高等学校 食品科学科 地域資源活用分科	帯広市
音更町ら～麺組合	音更町
北海道士幌高等学校 乳加工専攻班	士幌町
北海道士幌高等学校 地域資源専攻班	士幌町
北海道士幌高等学校 環境専攻班	士幌町
北海道士上高等学校	上士幌町
メムロビーナッツ	芽室町
株式会社 十勝いけだ屋	池田町
ほんべう豆まかナチ実行委員会	本別町
前田農産食品株式会社	本別町



遠軽町白滝



世界中からお客様が農業体験にいらっしゃいます

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

えづらファーム

【遠軽町白滝】

遠軽町白滝から「農村、農業の魅力」を発信

はじまりは？

私たちは東京在住の会社員でした。仕事は充実していましたが、もっと家族と共に過ごせる仕事がしたく、北海道で農家になることを決心しました。3年間の農業研修を経て、2012年に遠軽町白滝に畑作農家として新規就農しました。私たちは農家になってからここでの暮らしや農業という仕事に夢中になり、「農村や農業の魅力や素晴らしさ」を胸をはって1人でも多くの人に伝えていきたいと感じ、作物生産を基本に、それに留まらない様々な事業や活動を始めました。

おもな活動

42haの農地での畑作農業を基幹に、農業や農村の素晴らしさを広める為の様々な事業を展開しています。

- ・付加価値をつけた作物の通信販売（年間約1000箱）
- ・住込みボランティアの受入れ（年間約80名 ※2019年）
- ・農家民宿の経営（年間のべ約500名 ※2019年）
- ・農場アクティビティの提供（畑ツアー、収穫体験、ピザ窯料理等）（年間約250名 ※2019年）
- ・農業を通じた企業研修の受入れ（東京のIT企業等 年数回）
- ・農作物加工品の製造販売（冷凍じゃがいもの販売）



ジャガイモ食べ比べセット

ここが自慢

【農業を通じて、関係人口の創出】

受入れをしている住込みボランティアが、ここでの生活を通して「自分の夢が見つかった」と言われることにやりがいを感じます。また、ボランティアを近隣の農家に派遣することもあります。民宿には世界中から宿泊者が来てくれ、畑ツアー等を楽しんでいます。都会の子どもが「初めて土の上を歩いた」、「テントウムシを見た」と感激する姿に農村の恵まれた環境を再認識しています。企業研修では、「事務系職種の社員が協力して汗を流すことで、チームワークが深まり離職率が下がった」と聞き、農業の無限の可能性を感じます。冷凍じゃがいもの素揚げが、道の駅遠軽で提供され、「美味しい」を通して地域の魅力を知ってもらい一助になれば嬉しいです。



ビートの収穫作業を終えた瞬間のボランティア

連絡先

代表者名：江面 暁人さん／設立：2012年／会員：5名

住所：遠軽町白滝北支湧別152-3

電話番号：0158 - 48 - 2050

FAX：0158 - 48 - 2050

E-mail：ezurafarm@gmail.com

URL：www.ezurafarm.com